

授業概要

西洋史研究の世界で、今日国際的にもっとも注目されているテーマのひとつに「カリブ諸島（西インド諸島）」プランテーションにおける黒人奴隷の人口と出生・死亡、そして親子関係が挙げられる。本講義は、英国プリストル大学の特殊史料として保蔵されている「ピニー家文書」の読解を試みる。この文書は、18世紀末にカリブ海のリーワード諸島に属するネイヴィス島で、砂糖プランテーションを経営したプリストル市出身の「ピニー家」が残した膨大な文書類で、日本では初公開になる。まず授業の前半で、西インド諸島のプランテーションについて基礎知識を養い、その上で史料に取り組む。プランターや黒人奴隷の生々しい息遣いを感じ、奴隷制の歴史的意義の問題を考察する。

授業計画

第1回	授業概要・受講心得説明
第2回	講義①：西洋史における「西インド諸島奴隷プランテーション」問題 ウィリアムズ・テーゼ
第3回	講義②：サトウキビ栽培の歴史 アジア・地中海・ブラジルからカリブ海諸島へ
第4回	講義③：黒人奴隷制の歴史 セネガンビアからアンゴラ・モザンビークへ
第5回	講義④：アフリカ人奴隷貿易の歴史 ポルトガルから英国へ
第6回	講義⑤：奴隷制廃止のうねり 18・19世紀英国
第7回	史料紹介①：プリストル大学「ピニー家文書」の内容と資料的価値
第8回	「ピニー家文書」読解①：DM58/17 Account Book (1767) の検討
第9回	「ピニー家文書」読解②：DM58/31 Account Book (1785) の検討
第10回	「ピニー家文書」読解③：DM58/27 Account Book (1783) の検討①：農園の農地の配置
第11回	「ピニー家文書」読解④：DM58/27 Account Book (1783) の検討②：輪作
第12回	「ピニー家文書」読解⑤：DM1173 Plantation Occurrences 1791-1801 の検討①：「プランテーション・ジャーナル」史料の意義と内容
第13回	「ピニー家文書」の検討⑥：DM1173 の検討②：プランテーションの職種配分
第14回	「ピニー家文書」の検討⑦：DM1173 の検討③：農作業の季節性と労働配分の変化
第15回	総括 「ピニー家文書」から解明されること
第16回	筆記試験 論述式

到達目標

西洋史における黒人奴隷制の意義と実際について知識を得、それらを自分の言葉で説明できるようになる。厳しい判断と態度とを要求される「歴史の暗部」の史料を読むことを通して、歴史を過去の自分とは無関係のお話の世界のことではなく、それが生々しい現実だったことを肌で感じることを。

履修上の注意

授業の性格より、世界史・地理の知識を前提とし英語史料を読み解くので、「西洋史学入門」・「西洋史概説」などをあらかじめ受講し、英語力をブラッシュアップしておくことが望ましい。ただしこれら科目の未履修者や英語力に自信がない受講者が不利にならないよう十分配慮する。受講に不安のある人はぜひ研究室まで相談に来てほしい。

予習・復習

授業前半の講義期には、予習に力を入れること。あらかじめ次回授業のキーワードを提示するので、よく下調べしておくこと。また講義でも不明な点あれば、講義中に質問コーナーを特に設けるので、必ず質問すること。史料読解期には、復習に力を入れること。史料の文章（英文）をノートに復元し日本語の意味を正しく記すことができるまで入念に練習すること。

評価方法

定期試験・小テスト・授業の平常点の成績を総合して評価する。その配分割合は、定期試験60%、小テスト20%、平常点20%とする。平常点は、授業内課題の成績をもって評価。

テキスト

特に用いない。参考文献については、随時授業内で紹介する。必要な資料類は、すべてコピーを配布する。